

第9回静岡国際オペラコンクールが、10月28日から11月5日までの9日間にわたり、アクトシティ浜松大ホールで開催されます。

そもそも、オペラってなに！？

「オペラ」ってなんだろう？簡単に言ってしまえば、歌を歌いながら劇を演じるもの。オーケストラが伴奏し、舞台には建物や背景があり、衣装を着て歌い演じる、音楽・美術・建築・衣装・メイク・演出・照明など、さまざまなプロフェッショナルが集まった総合芸術といえるでしょう。

コンクールの準備進む

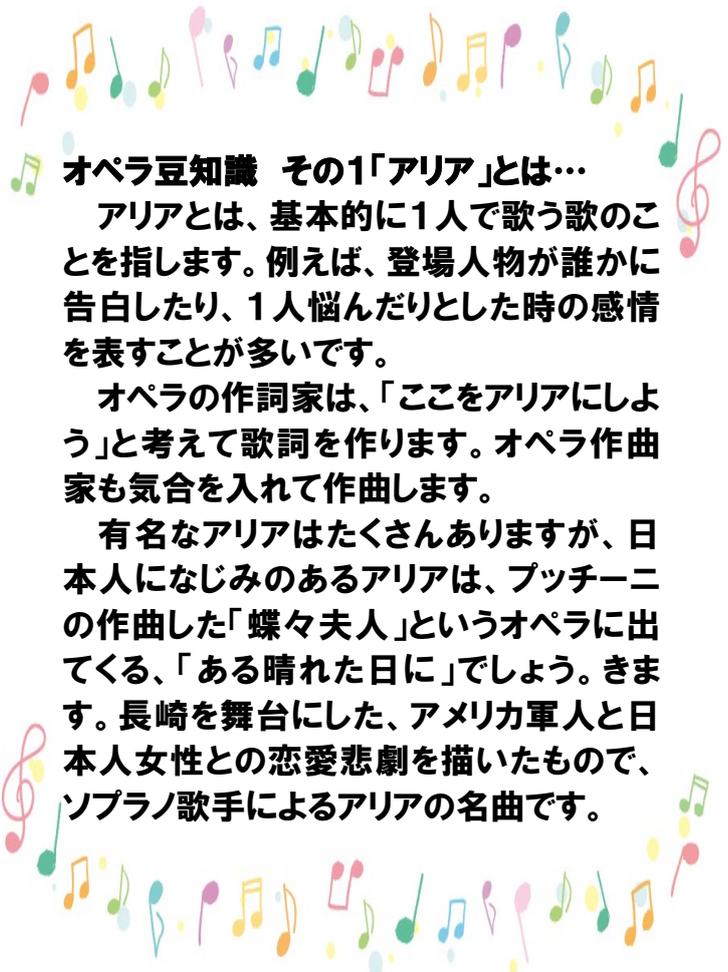
今年の1月5日から5月1日の約4ヶ月間、コンクール参加者の応募を受け付けました。その結果、第8回の191名を上回る、271名の応募がありました。全員の歌声をコンクール会場で聴くことはできないので、まず「予備審査」を行って、浜松に来てもらう参加者を決めます。

「予備審査」って？

応募するときに、自分の得意な「オペラアリア」の録音データを2曲提出します。この2曲を審査委員が聴き、コンクールを受けるにふさわしいと思った人を選びます。これが「予備審査」です。ここから、コンクールは始まっているのです。



(第8回コンクール三浦環特別賞 城宏憲さん)



オペラ豆知識 その1「アリア」とは…

アリアとは、基本的に1人で歌う歌のことを指します。例えば、登場人物が誰かに告白したり、1人悩んだりとした時の感情を表すことが多いです。

オペラの作詞家は、「ここをアリアにしよう」と考えて歌詞を作ります。オペラ作曲家も気合を入れて作曲します。

有名なアリアはたくさんありますが、日本人になじみのあるアリアは、プッチーニの作曲した「蝶々夫人」というオペラに出てくる、「ある晴れた日に」でしょう。きます。長崎を舞台にした、アメリカ軍人と日本人女性との恋愛悲劇を描いたもので、ソプラノ歌手によるアリアの名曲です。

次回もお楽しみに！